



TITLE:

# 京大東アジアセンターニューズレター 第489号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第489号. 京大東アジアセンターニューズレター 2013, 489

ISSUE DATE:

2013-10-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179275>

RIGHT:

## 目次

- 自動車シンポジウムのお知らせ
- 中国経済研究会のお知らせ
- 続・多国籍中小企業奮戦記 : バングラデシュ編
- 上海街角インタビュー ②
- 【中国経済最新統計】

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学ものづくり経営研究センター

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター協力会

## アジア自動車シンポジウム

## 黎明期のミャンマー自動車市場

—進出すべきか否か、その判断基準を考える—

■京都会場 2013 年 12 月 7 日(土) 13 時  
京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホール

■東京会場 2013 年 12 月 9 日(月) 13 時  
京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟 27 階)

総合司会

13:00-13:30

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 植田和弘

東京大学社会科学研究所教授 丸川知雄

13:30-14:30

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋

日系企業から見たミャンマー自動車産業(仮題 以下同)

14:30-15:00

鹿児島県立短期大学 講師

山本 肇

自動車産業—政策・発展史・今後の展望

15:15-15:45

事業創造大学院大学 教授

富山 栄子

輸入規制を受けている新車市場

15:45-16:10

住友商事 自動車リテイルファイナンス事業部

木村 将裕

金融事情と販売金融現況

16:10-16:35

慶應大学経済学部 准教授

三嶋 恒平

オートバイ流通の実態

16:35-16:55

タマサート大学 元講師

ソーポン・チタサッチャー

タイからみたミャンマー自動車産業

16:55-17:00

閉会挨拶

17:15-18:45

懇親会 参加費 2000 円 (協力会会員は無料)

司会 京都大学経済学部特任教授/東アジア経済研究センター協力会理事 宇野輝

開会挨拶 京都大学東アジア経済研究副センター長/京都大学経済学部准教授 矢野剛

閉会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター協力会長/京都大学経済学部名誉フェロー 大森経徳

参加の御申込は、塩地 [shioji@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:shioji@econ.kyoto-u.ac.jp) に会場名、氏名・所属、懇親会出欠を御連絡ください。  
東京会場は定員100名、京都会場300名です。お早めにお申し込みください。

\*\*\*\*\*

## 「中国経済研究会」のお知らせ

2013年度第4回（通算第36回）の中国経済研究会を下記の内容で開催することになりましたので、大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2013年10月22日（火） 16:30-18:00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館・地下1階みずほホール

報告者：大原盛樹（龍谷大学経済学部准教授）

テーマ：「オートバイ流通ネットワークに関するインドと中国の比較研究」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2013年度における開催（予定）日は以下の通りです。

前期：4月23日（火）、5月21日（火）、~~6月18日（火）~~、7月23日（火）

後期：10月22日（火）、11月19日（火）、12月17日（火）、1月21日（火）

（この件に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）

\*\*\*\*\*

## 続・多国籍中小企業奮戦記：バングラデシュ編

04. OCT. 13

中小企業家同友会アジア情報センター代表  
東アジアセンター外部研究員（協力会副会長）

小島正憲

### 《なぜバングラデシュだったのか？》

モンターズ・ブイアン 様

1992年7月24日

小島 正憲

今まで、妻に全てを任せていましたので、色々のご親切にご指導をいただいているにもかかわらず、お願いの手紙さえも差し上げず、誠に失礼をいたしました。失礼ついでに、しがたい父親の思いを聞いていただきたいと思います。ここに筆をとりました。

現在、私は中国湖北省黄石市で、合弁会社を経営しています。ここに来るまでに、私はタイあるいは韓国の地で、経営に携わって来ました。昨今の世界はボーダーレスだと言われますが、私にも実感として、そのことが良くわかります。同時に、日本人社会が多くの点で、世界の中でいかに異質であるかが良くわかりました。ことに現在の日本の状況は、若者にとって最悪だと思います。親たちが、戦後の焦土と化した日本を、汗水たらして、現在の豊かな国に作りあげて来ました。現在の日本の繁栄は、彼らの血と汗の結晶です。だからこの豊かさを享受する権利は、親たちにあるのであって、現在の若者たちには、論理的に言っても、その権利はありません。ところが折からの人手不足とあいまって、若者たちは空前の好待遇を受けており、まさに遊ぶことしか知らない人間と化してしまいました。このままでは日本は、遠くない時期にアメリカの二の舞となり、誇るべき生産業が衰退することは火を見るよりも明らかなです。もちろん私はナショナリストではありませんので、日本が衰退し他国が隆盛になることについて、いささかも愀気するつもりはありません。ただ日本の若者たちが努力することを忘れ、労働することを嫌い、楽をしてマネーゲームを楽しみながら生きていこうとする姿は、人間本来のあるべき姿ではないと思っているだけです。このような異常な日本を異常とは思わないで生きている若者たちを救うには、日本以外の地で日本をそして自分の人生をみつめなおさせることが最も有効だと考えております。

私は教育とは、子供を自立させるために、親が子供に自立のための手段を与えることだと考えております。したがっ

てそれは、学問であっても職業技術であっても、また人生を生き延びるためのその子固有の方法であってもかまいません。もちろん社会正義に反するものであってはなりませんが。そのような観点から、現在の日本の教育を見ますと、残念ながらその用をなしません。したがっていさか極端かもしれませんが、現行の学校教育の枠を離れて、私たち独自の教育方法を取って来ました。高校1年の時に、海外武者修行に出すというのもその一つです。高校1年のときに、海外生活体験をさせる意味は、彼らに目的意識もななくただに人生のもっとも大事な時期を過ごしてもらいたくないからです。この歳をもって、一度親子の縁を切り、人生の修羅場を体験させ、その上で何のために高校へ行くのか、何のために勉強するのかをはっきり自覚してもらいたいからです。もちろん、この時点で、彼らが親子の縁を切り、海外現地で自立して行く道を進むならば、それも親として望むところです。なにせいかにして早く親から自立させるかが、勝負なのです。すでに愚妻よりご案内のように、長男と長女はある程度この路線を歩んでおります。長男は誰一人として身寄りのないカイロのスラムで、1年間遊んできました。彼の足にはエジプトの毒虫に刺された傷跡が無数に残っています。これが彼の人生をこれから支えていくことでしょう。長女はスペインのブルゴスで謹厳実直な修道女たちと、1年間を過ごして来ました。神に仕える者の強さを知ったことが、彼女の人生を大きく変えました。

さて次男の高典ですが、この息子は、典型的な現代の日本の子供です。ファミコン以外には自ら積極的に行動することはありません。それでも同世代の人間の平均的な水準を要領良く泳いでいます。残念ながら私のもっとも嫌いなタイプに育ってしまいました。ただ素直なことのみが取り柄です。このような子であるがゆえに、今、思い切って親子の縁を切り、活眼させてやらねばと思っております。本当に厄介者を押しつけるような気がして、申し訳ないのですが、甘やかさないで鍛えてください。奴隷と思って、こき使ってもらって結構です。当然のことながら、日本の軟弱な体ですから、バングラデシュの環境に慣れず大病をするかもしれません。また最悪の場合、死ぬことがあるかもしれません。それでも私たち夫婦は、絶対にあなたさまをお恨みすることはございません。高典がいかなる結果になろうとも、私たち夫婦が責任をとりまします。ここにご誓約いたします。上の二人の時も私たちはその覚悟で、出しました。もし御地で、その短い生涯を終えたとしても、それはその子の運命です。また逆に自らの運命を自ら切り開けないようならば、彼のこれからの人生もたいしたことはないでしょう。

蛇足ながら、私は日本・タイ・韓国・中国と渡り歩き、そこでの商売を通じた実体験を通して、仏教・儒教・共産主義の中に住む人間の思想について、研究してきました。さらに近い将来、長男のイスラム教、長女のキリスト教、次男の新たな思想を踏まえて、来るべき21世紀の地球を救う思想を生み出したいというのが、私の個人的な夢です。

私どもの拙劣な考えをご理解いただきまして、本当に感謝しております、本当にご迷惑をおかけすることと思っておりますが、よろしくお願いします。

中国湖北省黄石市にて

小島正憲 拝

## 1. ブイアンさんとの出会い

私は約20年前に、次男の高典をバングラデシュのブイアンさん宅に放り出した。上記はそのとき提出した誓約書の全文である。これを読んでいただければ、私の教育方針がわかっていただけたと思う。長男と長女については、意外にすんなりと行き先が決まったが、次男の高典については難航した。最初はインドへ行かせようと考え努力してみたが、なかなか適当な預け先がみつからなかった。そのようなときに、名古屋でバングラデシュ人のブイアンさんの講演会があった。ちょうど私の母親がそれを聴講しており、講演後、ブイアンさんに直接、高典の受け入れをお願いしたところ、その場で快諾していただいた。私たち夫婦は、ブイアンさんの言葉に甘えて、高典をお願いすることにした。ブイアンさんの奥さんは静岡生まれの日本人で、ブイアンさんと結婚してバングラデシュに渡られたという。もちろん日本に長く留学されていたブイアンさんも日本語はべらべらであり、私たちにはなんの不安もなかった。

その後、高典はダッカのブイアンさん宅にホームステイすることになったが、もともと日本で自堕落な生活をしていた若者が、環境が変わったからといって、すぐに模範的な青年にモデルチェンジできるはずがない。高典はブイアンさん宅でも、日本同様のだらだらした生活を続け、予想通り、ブイアンさんに迷惑をかけることになった。ブイアンさん宅には、高典と同年のジュンくんというご子息があり、彼にもよい影響を与えなかったらしい。またブイアンさんご夫妻がともに日本語を話されるため、高典は英語も現地のベンガル語も話さず、漫然と毎日を部屋の中で過ごす結果となっていたようで、たまりかねたブイアンさんは、高典を友人のカエサルさん宅に預けることにした。カエサルさん宅には、だれも日本語を話せる人がいないからである。もちろん私も、それに異存はなかった。こうして高典は、やっとベンガル語の世界に入ってしまった。

1年後、帰国間際に、高典は腸チフスに罹ってダッカの病院に入院した。ブイアンさんから、「バングラデシュではポピュラーな病気なので心配しないように」との連絡があったので、私たち夫婦はそれを信じてお任せした。1か月ほど入院治療し、完治したということで、高典は日本に帰国した。しかし数日後、腸チフスが再発した。日本では絶えて久しい病気だが、腸チフスは法定伝染病に指定されているため大騒動になり、高典はすぐに日赤病院に隔離されることになった。それでも私は父親として、このような体験こそが、高典を大きく変えて行くと思っていて疑わなかった。しかし高典本人は40度以上の高熱の苦しみと腹痛の中で、「2度とバングラなんかに行くもんか」と思っていたという。

## 2. ブイアンさん来日



2009年の秋、突然、約10年ぶりにブイヤンさんから、「日本へ行くのでお目にかかりたい」との電話がかかってきた。お会いして話を聞いてみると、「バングラデシュに大学を創りたいので、協力してほしい」ということだった。私は「大金は出せないが、日本の大学教授などに学術面での協力依頼をすることはできる」と話した。ブイヤンさんが、「それで十分です」と答えられたので、さっそく知り合いの大学教授ら数人に、その旨を打診したところ、それぞれから快諾をいただいた。しかし私はバングラデシュについては一昔前の認識しかなく、ましてやブイヤンさんの大学構想については現地も見えていない。そんな状態では無責任だと思ったので、私は17年ぶりにバングラデシュに入ってみることにした。

当時、中国の私の工場群は、人手不足と賃金高騰などに悩まされ、どこかの国に工場移転を迫られていた。その第一候補はミャンマーであった。10数年前に撤退した地ではあるが、そこにはまだ強い人脈が残っていたからである。バングラデシュも候補地の一つではあったが、私はそこで工場を稼働させる気はなかった。なぜなら、かつて私は高典がバングラデシュ滞在中に、その地の縫製工場を視察したことがあり、そのときの印象があまりよくなかったからである。ブイヤンさんから、「ここで工場をやりませんか」と強く勧められたが、そのときは中国の工場群の立ち上げ中だったので、お断りした経過もある。

それでもバングラデシュの縫製事情も見ておく必要があるだろうと思い、わが社の幹部といっしょに、この機会にバングラデシュとミャンマーの縫製工場視察を行うことにした。フライトスケジュールの関係で、偶然に、まずバングラデシュへ入り、次ぎにミャンマーに行くことになったのだが、これが決定的だった。おそらくこのとき、訪問順序が逆だったら、バングラデシュでの工場設立はなかったかもしれない。

バングラデシュの縫製工場環境は、以前とは一変していた。この17年間で、バングラデシュは世界第2位の縫製大国に様変わりしていたのである。私たちは、立ち並ぶ巨大縫製工場に圧倒され、賃金の安さや膨大なワーカー数に驚き、即座にバングラデシュでの縫製工場設立を決定した。同行した幹部から、「ここで縫製工場をつくり、バングラデシュ人民の貧困撲滅に一役買いたい」との熱き申し出もあった。もちろんブイヤンさんは、大賛成であった。

### 3. 高典、工場責任者として着任

私はこのバングラデシュ縫製工場視察のために、高典を先乗りさせ準備させた。高典は行きたくなかったようだった。しかし、しぶしぶ入った17年ぶりのバングラデシュが、高典の人生を変えた。ブイヤンさん宅に入った途端、高典はびっくり仰天したという。そこにはブイヤンさん夫妻はもちろん、カエサルさん夫妻、あまり仲のよくなかったジュンくん、などなど20人ほどのみなさんが集まり、満面の笑顔で出迎えてくれたからである。中にはどうしても思い出せない綺麗な女性がいたそうで、聞いてみると、かつて高典があやした赤ちゃんだったという。みなさんが高典を大歓迎してくれ、うれしさやなつかしさのあまり、高典の口からは自然に片言のベンガル語が飛び出した。かくして高典は、「2度と行くもんか」と思っていたバングラデシュに、工場責任者として腰を落ち着けることになったのである。

以上

\*\*\*\*\*

## 上海街角インタビュー ②

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

### リコノミクス

日本ではアベノミクスは順調な滑り出しをしているように見える。「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」の三つを基本方針とし、これをアベノミクスの三本の矢と言っている。どうやら「東京オリンピック」が第四の矢となりそうだ。

中国の経済政策の舵取りをするのが李克強首相で、李首相の政策は「リコノミクス」と言われている。これは英国のバークレイズ・キャピタルが使いはじめて広まった。中国でも新華社通信が「李克強経済学」として紹介した。いずれもレーガン大統領が1980年代に実施した景気浮揚政策が「レーガノミクス」と名づけられたことから来ている。李首相の三本の矢は「大規模な景気刺激をしない」「膨張した信用リスクを抑制」「企業設備過剰の縮小など構造調整」である。日本では中身の理解は別にしてアベノミクスという言葉は国民の間に浸透しているが、中国ではリコノミクスは一般に知られているのか。上海で聞いてみた。インタビューしたのはすべて中国人である。

#### 1) 60歳男性 中国製造業総経理

---

「Leekenomics」など聞いたことがない。もちろん、李克強首相の経済政策の要点は知っているが、それが「リコノミクス」と呼ばれていることは知らない。新聞でも見たことがないよ。「アベノミクス」も聞いたことはない。中国語では「李克強経済学」といわれているって？それなら新聞で見たことがあるよ。

2) 38 歳男性 中国貿易会社総経理

「アベノミクス」も「リコノミクス」も日本人顧問から聞いて知っている。中身は一応理解しているつもりだ。「アベノミクス」の行方には大いに関心をもっている。国際貿易をやっていると日本の通貨の動向に大きく影響されるから。また、「アベノミクス」の成否はアジア諸国の経済状況とも大いに関係している。さらに、アジア諸国の経済は中国の動向に左右される。「リコノミクス」も「アベノミクス」も一蓮托生だよ。

3) 70 歳男性 中国貿易会社総経理

「アベノミクス」は日本人の友人から聞いたことがある。しかし、「リコノミクス」という言葉は知らない。李首相の経済政策はよく知っている。しかし、大規模な景気刺激策（公共投資等）なしで、停滞気味の経済を安定成長させられるか疑問だ。海外からの投資をもっと呼び込むような柔軟な政策が必要だ。日本との関係も「政冷」はいろいろいきさつがあって早急な解決は難しいとしても、「経冷」を呼び込むようなことはよくない。せめて以前のような「政冷経熱」を演出しないと地方は疲弊してしまう。

4) 21 歳女子大学生

「リコノミクス」も「アベノミクス」も知らない。李首相の経済政策もよく知らない。

5) 25 歳女性 上海税関勤務

「リコノミクス」も「アベノミクス」も知っている。海外の報道で読んでいる。李首相の経済政策も日本の安倍総理の経済政策も知っているつもりだ。国際経済を知らなければ税関の仕事は勤まらない。

6) 45 歳男性 日系大企業経理

「アベノミクス」も「リコノミクス」もよく知っている。しかし、中国では「リコノミクス」とは誰もいわないよ。「李克強経済学」だ。彼の政策は中国経済の軟着陸のために必須だと思うが、国営企業改革が実現して富の分配が進まないと内需も増えないし、改革が実現する前に不況に沈んでしまう恐れがある。三中全会でどのような方針が出るか楽しみだ。

7) 70 歳代男性

「アベノミクス」も「リコノミクス」も知らない。「安倍経済学」は知らないが「李克強経済学」は知っている。しかし中身はよく知らない。国営企業改革が必要と発言しているのは新聞で見て知っている。しかし、国営企業は既得権のかたまりだから改革は難しいと思う。俺は国営会社に勤めていたが年金が減るような改革はして欲しくない。

8) 20 歳代後半女性

「李克強経済学」という言葉は新聞で見たが、中身は知らない。関心もあまりない。

どうやら「Leekenomics」という英語の言い方は海外と接点のある知識人以外は知らないようで、「リコノミクス」は中国ではポピュラーではないようだ。中国語で「李克強経済学」というと知識階級のかかりの人は知っていた。これは無理からぬことで、欧米人の名前も、アルファベットの会社名も薬品名もすべて漢字表記してしまう中国で「リコノミクス」という言葉（発音）が定着するわけではないと思いついた。

9月11日から13日まで大連で開催された夏季ダボス会議で初日に基調講演を行った李首相は、国有企業改革などの構造改革を進めていくと表明、国有企業が独占する通信や電力分野に民間投資の参入を促すことを強調した。「リコノミクス」はどこまで改革に踏み込めるか？11月の共産党中央委員会第3回全体会議（3中全会）で今後の経済改革の方向が示されるが、最近の報道を見ると、保守派と改革派のせめぎあいで「リコノミクス」も微妙な立場にあるようだ。金融リスクの抑制、過剰設備の縮小を強調する一方で、高速鉄道をはじめとする鉄道インフラ整備の加速を表明した。最近、李総理は海外メディアに向かって構造改革の推進を積極的に発信している。これは海外メディアを借りて国内向けに改革の必要性を訴えているように見える。

## 【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2											
6月	9.5	15.1	17.7	6.4	11.8	223	17.9	19.0	6.6	2.8	15.9	15.2
7月		14.0	17.2	6.5	27.7	315	20.3	23.0	2.7	19.8	14.7	15.0
8月		13.5	17.0	6.2	33.4	178	24.4	30.4	6.4	11.1	13.6	14.8
9月	9.1	13.8	17.7	6.1	27.3	145	17.0	21.1	-3.5	7.9	13.1	14.3
10月		13.2	17.2	5.5	34.1	170	15.8	29.1	-0.6	8.7	16.7	14.1
11月		12.4	17.3	4.2	21.4	145	13.8	22.6	-12.9	-9.8	16.2	14.0
12月	8.9	12.8	18.1	4.1	5.7	165	13.3	12.1	-15.4	-12.7	17.3	14.3
2012年												
1月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013年												
1月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月				3.1		152	-0.4	7.4			14.2	14.3

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家統計局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。